

ブラジル金融政策（2022年5月）

10会合連続の利上げで政策金利は12.75%に

2022年5月6日

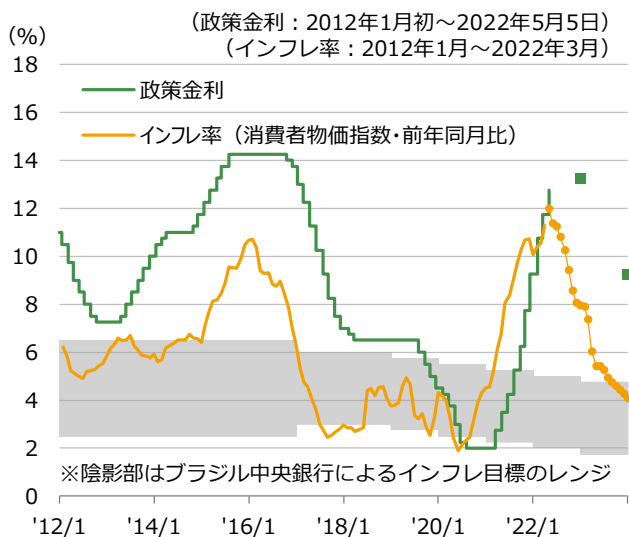
次回の小幅な追加利上げで、今回の利上げサイクルは終了か

ブラジル中央銀行は5月4日（現地）、金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を11.75%から12.75%に引き上げることを決定しました。前回会合の声明文で示唆していた通り、利上げ幅は前回と同じ1%ポイントでした。利上げは昨年3月から10会合連続、累計の利上げ幅は実に10.75%ポイントです。

声明文では、中国の新型コロナ感染拡大やウクライナ危機に関連した供給問題により、インフレ圧力が一層高まっていると指摘した上で、インフレ見通しやその不確実性の高さなどを考慮して、今回の利上げを決定したと説明しています。ただし、前回までの声明文にあった「インフレ見通しのリスクは上振れ方向に傾いている」との文言が消え、「想定以上の経済活動の減速」などによるインフレ見通しの下振れリスクについての言及を追加した点は、大きな変化と言えます。また、次回会合に向けては「より小幅な調整での（利上げ）サイクルの延長を予測する」と述べています。

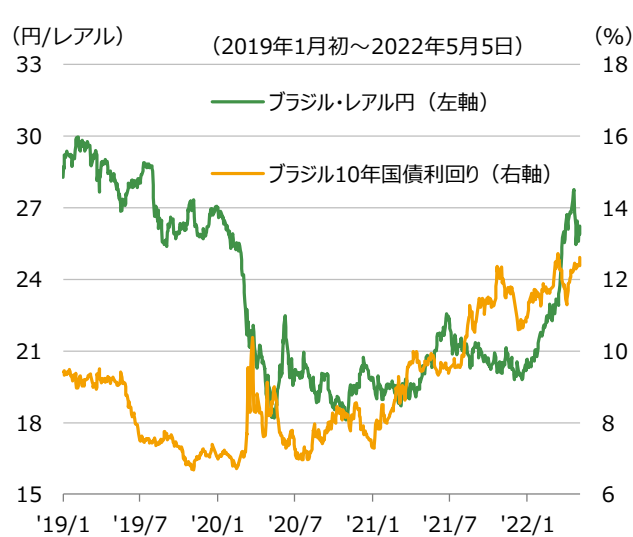
依然として先行きの不確実性は高いですが、声明文の内容を解釈すると、現時点では次回6月会合において0.5%ポイントの利上げを決定したところで今回の利上げサイクルは終了となる可能性が高そうです。年初から急騰してきたブラジル・レアル円は足元で上昇一服の様相ですが、利上げサイクルが終了となれば、次は来年以降の利下げを織り込むように国債利回りが低下（価格が上昇）する展開が想定されます。

■ ブラジルの政策金利とインフレ率



※ ■ は政策金利の予想（2022年末と2023年末）
※ ● はインフレ率の予想（2022年4月～2023年12月）
※ 予想はブラジル中央銀行によるエコノミスト調査に基づく
(出所) ブラジル中央銀行、ブルームバーグ

■ ブラジル・レアル（対円）と10年国債利回り



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。